

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

三重県

学校名

伊賀市立柘植中学校

人権課題

子ども

対象学年・  
取り扱った教科等

3年・社会科（公民的分野）

目標・人権教育のねらい

「児童の権利に関する条約」の内容をふまえ、自分を権利の主体者としてとらえる生徒の育成。

実施した内容

「児童の権利に関する条約」を要約したものをカードにして配付した。そして、「自分が大切にしたい権利」をロイロノートの思考ツール「ダイヤモンドランキング」を使って、理由とともにランキングに位置づけた。

工夫した点

条約の原文から読み解くと、難しい用語がたくさんあるので、三重県教育委員会人権学習指導資料『みんなのひろば』（小学校高学年）からカードを作成した。また、ロイロノートで全員の回答を共有し、他の人の意見も知ることができるようにした。

他教科との  
関連

事業成果

- ・ 知識的側面：89.1%→89.1%（±0）
- ・ 価値・態度的側面：85.2%→87.3%（+2.1）
- ・ 技能的側面：85.9%→87.3%（+1.4）

「児童の権利に関する条約」の学習の中で、「自分たちの意見を伝えること」が権利として認められている意外性に気づいた。ロイロノートで回答を共有したことにより、他の人の意見も知ることができ、授業が終わってからも学習内容について話している生徒の様子が見られた。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

|             |  |               |               |
|-------------|--|---------------|---------------|
| 都道府県・指定都市名  | 三重県  | 学校名           | 伊賀市立柘植中学校     |
| 人権課題        | 女性   | 対象学年・取り扱った教科等 | 3年・社会科（公民的分野） |
| 目標・人権教育のねらい | 男女が対等の立場で社会のあらゆる分野に共に参画し、責任を分かち合う社会をめざす子どもの育成。   |               |               |
| 実施した内容      | 日本国憲法「平等権」や「日本の選挙制度」の学習の中で、「日本はなぜ、女性国会議員が少ないのか」という問いを皮切りに、日本の女性が社会進出しづらい背景について考えた。   |               |               |
| 工夫した点       | 三重県教育委員会人権学習指導資料『みらいをひらく』の女性の人権「誰もがはたらきやすくするために」の項目で取り上げられた題材を読み、問題点について考えた。さらに、【学習補助資料】のグラフを活用し、日本社会における女性への見方についても考えた。また『図解でわかる14歳から考える民主主義』に掲載されている「世界の民主主義ランキング」や「ジェンダーギャップ指数」の資料をもとに、「男は仕事、女は家庭」の意識についてだけでなく、クォーター制の導入など政治体制の側面からも考えられるようにした。 |               |               |
| 他教科との関連     |  |               |               |
| 事業成果        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知識的側面：89.1%→89.1%（±0）</li> <li>・ 価値・態度的側面：85.2%→87.3%（+2.1）</li> <li>・ 技能的側面：85.9%→87.3%（+1.4）</li> </ul> <p>女性が社会進出しづらい背景には、今の日本社会における「男女の固定的な見方」が根づいていることを、生徒の実感のもと再確認することができた。</p>                     |               |               |

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

三重県

学校名

伊賀市立柘植中学校

人権課題

高齢者

対象学年・  
取り扱った教科等

3年・社会科（公民的分野）

目標・人権教  
育のねらい

すべての世代の人々が人とつながりながら、生きがいをもって安心してくらす地域社会を築こうとする子どもの育成。

実施した内容

社会科の教科書（公民的分野）「少子高齢化の社会で生きる私たち」で、少子高齢化社会がもたらす日本社会への影響について考えた。経済の学習では、高齢者が悪徳商法のターゲットにされやすい事象を取り上げ、共生社会を目指すためにはどうあるべきかを考えた。

工夫した点

ニュースなどでは、高齢社会と人口減少が相まって、若者への負担が多くなることに焦点があてられがちだが、核家族化が進み、一人暮らしを余儀なくされる高齢者の存在や老老介護をしている実態も記事でとりあげ、高齢者も社会的に不利な立場に置かれやすいことに気づかせるようにした。

他教科との  
関連

事業成果

- ・ 知識的側面：89.1%→89.1%（±0）
- ・ 価値・態度的側面：85.2%→87.3%（+2.1）
- ・ 技能的側面：85.9%→87.3%（+1.4）

高齢者の一人暮らしや老老介護の実態を知り、生徒たちは、改めて社会保障の充実の大切さに気づくとともに、高齢者とともに生きる社会について考えることができた。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

三重県

学校名

伊賀市立柘植中学校

人権課題

障がい者

対象学年・  
取り扱った教科等

1年・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

障がいの捉え方には「個人モデル」と「社会モデル」の考え方があることがわかる。そして、その「障がい」を生み出しているのは、社会であり、その偏見や差別をなくすのは自分であると考えられる生徒の育成。

実施した内容

三重県教育委員会人権学習指導資料『みらいをひらく』の「フライ人とウォーク人」を読んで考える活動を通して、障がいの捉え方には「個人モデル」と「社会モデル」の考え方があることを学習した。また、滋賀県甲賀市にある障がい者福祉施設「やまなみ工房」へ校外学習に行き、スタッフさんが利用者さんの個性を大切にしながら共に過ごす様子に触れた。

工夫した点

障がい者の人権に関わる問題は個人の問題ではなく、障がいをつくりだしている自分たちの問題であることに気づかせるために、やまなみ工房施設長の山下完和さんからお話を聴かせていただいた。

やまなみ工房の校外学習後、自分たちのクラスでもお互いのことを理解しあえているのかふりかえり、誰もがいきいきと過ごせるクラスにするために自分にできることは何かについて考え、交流した。

他教科との  
関連

事業成果

- ・ 知識的側面：89.1%→89.1%（±0）
- ・ 価値・態度的側面：85.2%→87.3%（+2.1）
- ・ 技能的側面：85.9%→87.3%（+1.4）

自分たちの思い込みや偏見が障がいをつくりだしていることに気づき、障がい者の人権に関わる問題は、自分たちが考える問題であると考えられるとともに、なくす主体者として自分にできることを考え、クラスで交流することができた。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

三重県

学校名

伊賀市立柘植中学校

人権課題

アイヌの人々

対象学年・  
取り扱った教科等

2年・社会科（地理的分野）

目標・人権教  
育のねらい

アイヌの歴史・文化を尊重し、アイヌの人々に対する偏見や差別を許さない子どもの育成。

実施した内容

教科書（地理的分野）北海道地方の学習で、「地域の多様な文化を大切にする取り組み」の  
コラムにおいて、アイヌ語に由来する地名やカムイの伝承について学び、「ウポポイ」の動画  
を視聴した。

工夫した点

アイヌ語にまつわる北海道の地名をクイズ形式にし、地図帳を使ってグループで調べ学習  
を行った。出題の際、現在の地名の発音と似ているものからパワーポイントを使い、提示し、  
その法則についても考える場をつくった。

他教科との  
関連

事業成果

- ・ 知識的側面：89.1%→89.1%（±0）
- ・ 価値・態度的側面：85.2%→87.3%（+2.1）
- ・ 技能的側面：85.9%→87.3%（+1.4）

アイヌ民族は、自然を大切にしている民族であることを、アイヌ語や文化から気づくことが  
できた。そのうえで、アイヌ民族を日本の伝統的な民族として尊重することの大切さを生徒は  
感じていた。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

|             |  |               |              |
|-------------|--|---------------|--------------|
| 都道府県・指定都市名  | 三重県  | 学校名           | 伊賀市立柘植中学校    |
| 人権課題        | 外国人  | 対象学年・取り扱った教科等 | 2年・総合的な学習の時間 |
| 目標・人権教育のねらい | 在日韓国・朝鮮人の歴史的経緯を踏まえ、外国人に係る文化・価値観の多様性についての理解を深め、多文化共生社会を築こうとする子どもの育成。  |               |              |
| 実施した内容      | 三重県教育委員会人権学習指導資料『みらいをひらく』の「ようこそ日本へ」と「NO!外国人に対する差別」を活用し、外国人にもわかりやすい地図記号・マークについて考えた。また、伊賀市のホームページなどを活用し、「やさしい日本語」について考えた。「ヘイトスピーチ解消推進法」についても学習した。三重県教育委員会人権学習指導資料『みんなのひろば』（小学校高学年）の李慶順さんの教材を用いて、在日韓国・朝鮮人とともに差別に立ち向かうなかまの存在について考えた。 |               |              |
| 工夫した点       | 校外学習で大阪コリアタウンを訪れ、コリアタウンのフィールドワークをした。また、コリアNGOセンター代表理事の郭辰雄さんからの聞き取り学習を行った。郭さんはヘイトスピーチに対してカウンター活動を行っており、その時に多数の日本人がその活動に参加した話を聴き、日本人が差別をなくす主体者であることを感じられるようにした。  |               |              |
| 他教科との関連     |  |               |              |
| 事業成果        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知識的側面：89.1%→89.1%（±0）</li> <li>・ 価値・態度的側面：85.2%→87.3%（+2.1）</li> <li>・ 技能的側面：85.9%→87.3%（+1.4）</li> </ul> <p>日本人も外国人も住みやすい日本にしたい。そのためにも差別をなくすのは自分たちがすべきことだと考えることができた。</p>               |               |              |

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

三重県

学校名

伊賀市立柘植中学校

人権課題

HIV感染者等

対象学年・  
取り扱った教科等

3年・保健体育科

目標・人権教  
育のねらい

HIV感染者・エイズ患者に対して偏見を持ったり排除をしたりせず、共に社会で暮らそうとする子どもの育成。

実施した内容

教科書（保健分野）「性感染症とその予防／エイズ」の学習を行った。性感染症はどんな病気であり、どうすれば予防できるのかを学んだ。また、性感染症の予防について、感染者や関係者の立場に立って考えることについても学習した。

工夫した点

他の性感染症も含め、自分一人の問題ではないことを考えさせた。「うつす可能性」「うつされる可能性」が生じる病気であることを確認し、正しい予防方法について考えさせた。また、感染経路などを正しく知ること、感染者に対しての偏見や思い込みが起こらないようにすること、正しい知識の必要性についても考えるようにした。そして、レッドリボンの取組や世界的な啓発活動についても紹介した。

他教科との  
関連

事業成果

・ 知識的側面：89.1%→89.1%（±0）    ・ 価値・態度的側面：85.2%→87.3%（+2.1）  
・ 技能的側面：85.9%→87.3%（+1.4）

性感染症について正しい知識、予防方法を知るとともに、HIV感染者が差別されることに対しての不合理性に気づくことができた。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

三重県

学校名

伊賀市立柘植中学校

人権課題

ハンセン病患者等

対象学年・  
取り扱った教科等

2年、3年・総合的な学習の時間

目標・人権教  
育のねらい

ハンセン病に係わる歴史的事実に学び、ハンセン病回復者とその家族の人権が守られるためには、自分たちが正しい知識を持ち、それを伝えていくことが大切であると気づける子どもの育成。

実施した内容

ハンセン病とはどのような病気なのか、ハンセン病に係わる歴史的事実を学んだ。そして、修学旅行で国立ハンセン病療養所「長島愛生園」を訪れることで、ハンセン病問題の歴史を学芸員の方から学んだ。さらに、元ハンセン病患者の方からお話を聞かせていただくことで、差別の不条理さを改めて感じ、差別をなくすための生き方を考えた。その後、学んだことを修学旅行報告会として全校に発信した。

工夫した点

長年ハンセン病問題について取材活動を続けており、本校の卒業生でもある三重テレビ放送の小川秀幸さんにお話しいただき、ハンセン病問題は過去のことでなく、今もなお差別に苦しむ人がいることを感じさせるようにした。また、ハンセン病元患者の方との出会いを通して、自分にできる差別をなくす生き方を考えさせた。

他教科との  
関連

事業成果

・ 知識的側面：89.1%→89.1% (±0)    ・ 価値・態度的側面：85.2%→87.3% (+2.1)  
・ 技能的側面：85.9%→87.3% (+1.4)

ハンセン病問題のように、私たちが間違った情報に流されるのではなく、正しい情報を知り、伝えていくことが、差別をなくす行動につながることを、実際の出会いを通して実感できた。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

三重県

学校名

伊賀市立柘植中学校

人権課題

刑を終えて出所した人・犯罪被害者等

対象学年・  
取り扱った教科等

3年・社会科（地理的分野）

目標・人権教育のねらい

刑を終えた人、犯罪被害者の人の社会復帰を支えるためには、自分たち周囲の人の理解と協力が必要であることに気づく子どもの育成。

実施した内容

実際の刑事事件をもとにした模擬裁判の事例をロールプレイ形式で行い、生徒一人ひとりが裁判員として判決を考えた。その際、その先の「刑を終えた人たち」や「犯罪被害者」に焦点をあて、その人たちが社会に復帰していくために必要なことについて考えた。

工夫した点

判決を下すことは、加害者の人生を大きく左右するだけでなく、その家族にも影響があること、また、裁判を起こした被害者やその家族がいわれのない誹謗中傷を受けうることを、手記を読んで考えさせるようにした。また、その判決は、その罪に見合ったものであるとともに、加害者の社会復帰のためでもあることを再確認させた。

他教科との  
関連

事業成果

・ 知識的側面：89.1%→89.1%（±0） ・ 価値・態度的側面：85.2%→87.3%（+2.1）  
・ 技能的側面：85.9%→87.3%（+1.4）

生徒は、今まで、ニュースなどの報道からその事件の加害者を許せないという見方が強かったようだが、罪を犯すことがその人だけではなく、その周りの人の人生も狂わせる可能性があることを認識することができた。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

三重県

学校名

伊賀市立柘植中学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・  
取り扱った教科等

2年、3年・技術家庭科

目標・人権教  
育のねらい

インターネットの特性を理解するとともに、インターネットを通じて発信される情報内容を批判的にとらえ、適切に判断できる子どもの育成。

実施した内容

教科書及びプリントの事例を活用し、インターネットの特性（①情報の公開性②匿名性③情報の検索性、④情報の信ぴょう性）やSNSでの人権侵害事例について、話し合いながら学んだ。

工夫した点

インターネットによる人権侵害をしない、させないことを強く感じさせるため、生徒の身に起こる可能性のある事例を集めたプリントを活用した。そして、生徒が実際にホームページやSNSを見たときに、「これはおかしい」と気づいたり、この文章や写真はアップロードすべきか判断したりする実践行動力を身につけさせるために事例について話し合う活動を取り入れた。また、文部科学省が作成した視聴覚教材「情報化社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方考える～」を活用した。

他教科との  
関連

2年・保健体育科、3年・国語科、3年・社会科（公民的分野）

事業成果

・知識的側面：89.1%→89.1%（±0） ・価値・態度的側面：85.2%→87.3%（+2.1）  
・技能的側面：85.9%→87.3%（+1.4）

他の教科と結びつけたり、実生活に近い題材を扱って考えさせたりすることで、メディア・リテラシーへの理解を深めることができた。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

|                |  |                   |                |
|----------------|--|-------------------|----------------|
| 都道府県・<br>指定都市名 | 三重県  | 学校名               | 伊賀市立柘植中学校      |
| 人権課題           | 北朝鮮当局による拉致問題等  | 対象学年・<br>取り扱った教科等 | 1～3年・総合的な学習の時間 |
| 目標・人権教育のねらい    | 北朝鮮当局による拉致問題等について、関心と認識を深められる子どもの育成。   |                   |                |
| 実施した内容         | 8月に行われた「拉致問題に関する中学生サミット」に参加した生徒代表が「拉致問題とはどのような問題か」「拉致被害者家族の声を聴き、私たちに何ができるかについて考えたこと」を全校集会の場で還流報告し、各学年で感想交流をした。   |                   |                |
| 工夫した点          | 北朝鮮に対しては、近年のマス・メディアのマイナス的な報道によって、「北朝鮮は悪い国」とひとくくりにした見方になりがちである。そうならないように、北朝鮮に住んでいるすべての人が悪いのではなく、その国の政治体制が招いた事象であることを理解させるようにした。   |                   |                |
| 他教科との<br>関連    | 3年・社会科（公民的分野）  |                   |                |
| 事業成果           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知識的側面：89.1%→89.1%（±0）</li> <li>・ 価値・態度的側面：85.2%→87.3%（+2.1）</li> <li>・ 技能的側面：85.9%→87.3%（+1.4）</li> </ul> <p>還流報告を受けて、拉致問題について理解するとともに、被害者や家族の気持ちを考えることができた。また、拉致問題を自分の問題として引き寄せて考えることができた。</p> |                   |                |

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

三重県

学校名

伊賀市立柘植中学校

人権課題

性的指向・性自認

対象学年・  
取り扱った教科等

1年・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

性のあり方は多様であることを認識し、性的指向や性自認に係る偏見にとらわれない社会をつくらうとする子どもの育成。

実施した内容

学校の中で、男女に分けられて困ることを出し合い、改善策を考えさせる。そして、それを社会に広げたとき、どのような問題が起こるかを考え、誰もがいきいきと過ごす社会にしていくためにはどうすればいいかを考えた。

工夫した点

いきなり社会に広げるのではなく、学校という小さな社会の中で起こることから考えさせていくことで、生徒たちもなじみ深く感じるのではないかと考えた。そこから、1学期の障がい者の人権問題で学習した、「誰もがいきいきと過ごしていく社会」と関連させていきながら、共生社会にしていくためにできることを考えていった。

他教科との  
関連

1年・保健体育科（性とどう向き合うか）

事業成果

・ 知識的側面：89.1%→89.1%（±0）    ・ 価値・態度的側面：85.2%→87.3%（+2.1）  
・ 技能的側面：85.9%→87.3%（+1.4）

当事者が生きにくいのは、私たちの思い込みや偏見が原因となっていることに気づくことができた。